



## 2015 年度東北支部会報告

寺 蘭 淳 也 (会津大学)

### 1. はじめに

晩秋の風が迫る 2015 年 10 月 31 日 (土) ~11 月 1 日、秋田市の秋田大学教育文化学部で、天文教育普及研究会の 2015 年東北支部研究会が開催された。

このところ、東北支部研究会の開催は、山形や福島など南東北が多いという傾向が続いていた。

一口に東北地方といっても大変広く、特に北東北は移動だけでもそれなりに時間がかかってしまうくらい遠い場所である。ではあっても、いつも南東北ばかりで開催というのは北東北の方にとっては参加が難しいということにもつながるであろう。東北支部は東北全体で盛り上げていくべき...今回はそのようなことを考え、秋田大学の毛利春治さんのお力を頂いての秋田開催にこぎつけた。

秋田は意外に知られざる「宇宙県」である。秋田市の北方、能代市には宇宙科学研究所(宇宙研、である)の能代ロケット実験場がある。また、そこから東に向かった大館市(旧・田代町)には三菱重工業のロケットエンジン試験場がある。

能代市は、宇宙研の施設を利用した教育活動が盛んで、夏には「能代宇宙イベント」が開催される他、高校生向けのロケット製作講座など、幅広いアウトリーチ・教育活動を実施している。今回はその能代における活動を率いている堤明正さんにお越しいただき、特別講演を行っていただいた。

今回は予想を超える 23 名もの方にご出席いただき、手配していた教室が若干狭く感じるくらいの賑わいになった。

### 2. プログラム

今回のプログラムは以下のとおりである。

10 月 31 日 (土)

==はじめに==

13:00-13:10 主催者あいさつ(寺蘭・毛利)

13:10-13:30 参加者自己紹介(全員)

==一般講演 1 地域密着型の活動==

<座長: 亀谷收>

13:30-13:50 毛利春治(秋田大学)

秋田大学教育文化学部天文台での市民を対象にした活動について

13:50-14:10 亀谷收(国立天文台水沢 VLBI 観測所)

国立天文台水沢 VLBI 観測所で行っている高校生対象の電波観測

14:10-14:30 永沢敏昭(横手星の会)

「横手星の会」の活動から

14:30-14:50 原田敦(東北大学天文同好会 OB 会)

星カフェみやぎ座にみるサイエンスカフェの一考察

(比嘉義裕氏への黙祷)

14:50-15:05 休憩

==一般講演 2 学校教育・教材開発==

<座長: 伊藤芳春>

15:05-15:25 亀谷光(仙台市天文台)

小学校と天文台の連携による单元まるごと学習の実践 ~2014 年度実施結果から見えてきたこと~

15:25-15:45 伊藤芳春（聖和学園高等学校）  
ペルセウス座流星同時観測の教材化

15:45-16:05 高田淑子（宮城教育大学）  
星空観察学習の教材開発と実践（仮題）

16:05-16:25 中村泰久（元福島大学）  
天文学の立場から見た「原子」と「元素」の  
学び

16:25-16:30 記念撮影（全員）  
16:30-16:45 休憩

==法人化について==

16:45-17:00 法人化についての説明（嶺重）

17:00-18:00 法人化についての質疑応答・議  
論（全員）

18:00 頃-- 施設見学（秋田大学教育文化学  
部天文台）

19:30 頃-- 懇親会

11月1日（日）

==特別講演==

9:30-10:30 堤明正（秋田大学）

秋田県能代市における宇宙教育ならびに宇宙  
関連活動

==一般講演3 普及活動==

<座長：寺菌淳也>

10:30-10:50 富谷弘（代理発表：伊藤芳春）  
絵本「モチモチの木」の月物語

10:50-11:10 寺菌淳也（会津大学）

2015年の中秋の名月でなぜ月探査情報ステ  
ーションの爆発的アクセスがなかったのか？

==来年度の来年度の天教年会に向けて==

11:10-12:30 来年度の天教年会に向けての  
議論（司会：寺菌）

なお、実践報告は講演が20分、質疑応答  
が10分の形で行われた。

プログラムにもある通り、1日目の原田さ  
んの発表の際には、会の直前、9月2日に急  
逝した比嘉義裕さんのご冥福を忍び、1分間  
の黙祷を行った。

今回もまた、2014年度と同様、施設見学を  
実施した。ちょうど会場の屋上にあたるとこ  
ろが望遠鏡となっていて、天候は良くなかつ  
たものの（やはりこの時期は冬のはしりの天  
候なのだろうか）、望遠鏡や空の様子を見学者  
が興味深く眺めていた。

懇親会は大学から歩いて20分ほどの、秋  
田駅の西側にある郷土料理のお店でとり行わ  
れた。秋田といえばやはりお酒、そしてきり  
たんぽに代表される美味しい郷土料理である。  
おいしいお酒と料理に舌鼓を打ちながら、参  
加者は時間を忘れて楽しい会話を続けていた。

伊藤芳春さんの発表の際には、秋田朝日放  
送からのテレビ取材も入り（おそらく支部会  
始まって以来だと思うが）、その後放送され  
たようである。前述の通り大変大勢の出席者  
で賑わったということもあるので、今回は本当  
に多くの人に恵まれた会になったという印象  
である。

### 3. 支部研究会を振り返って

2014年度の支部研究会とは異なり。今回は  
テーマを設けることなく、各会員による実践  
報告をメインとした。1つの活動を長く続け  
ている方もいらっしゃれば、新しい活動を行  
っていらっしゃる方もおり、またその内容も  
非常に多岐にわたっている。東北は地理的に  
広いだけでなく、様々な取り組みが天文教  
育という枠組みの中で行われている、とい  
う感を改めて強くした次第である。

さらに、特別講演の堤さんのお話は、天文  
教育とは若干異なる「宇宙教育」（あるいは「宇

宙開発教育)に関連するお話で、かつその活動は非常に実践的、かつ大きな成果を上げているというものであった。私も大変興味深く拝聴させていただいたし、出席者からも次々に質問が飛び、しばしば講演が止まってしまうという大変な熱気に包まれた特別講演となった。

実は、堤さんには約1ヶ月前に鹿児島で開催された宇宙科学技術連合講演会(宇科連)という学会の「教育・アウトリーチ」セッションにおいてご一緒し、大変興味深いお話を伺ったことから、今回の特別講演をご依頼したという次第である。

私自身も宇宙開発と天文、あるいは宇宙教育と天文教育両方に軸足を置いている人間であり、そのような意味では、今回の堤さんの講演は私を含め、多くの人に大変いい刺激になったのではないだろうか。

2014年度の支部研究会報告では、「北東北でも支部研究会を開催したい」ということを私も述べていたので、その「公約」はまずは達成できたと思う。岩手は国立天文台水沢という強力な拠点もあることから、ぜひ次回は、なかなかアクセスのチャンスがない青森での開催を狙いたいところである。

最後に、今回の支部研究会に際して、会場の提供、ご準備などにご尽力をいただいた秋田大学の毛利春治様、特別講演を快くお引受けいただいた堤明正様、また準備に際しご協

力を頂いた東北支部メンバー各位に深い感謝の意を表したい。



図1 支部研究会での記念写真



寺園 淳也

\* \* \* \* \*